

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	映像論		
英文授業科目名	Visual Image Analysis		
開講年度	2008年度	開講年次	3年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-		
開講学科・専攻	システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	兼子 正勝		
居室	西6-409		

公開E-Mail	授業関連Webページ
kaneko@hc.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
カメラワークやモンタージュ、コンセプトやストーリーなどの映像技法の基本を習得し、これを意識化しながら実際の映像コンテンツを制作する。

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
メディアリテラシー

【教科書等】
資料を授業時に配布

【授業内容とその進め方】

前半は、カメラワークやモンタージュ、コンセプトやストーリーなどの映像技法の基礎を講義形式で学ぶ。

後半は、これを生かして実際のコンテンツを制作する。

講義部分では、いわゆる映像技法の古典をおさえながら、それが近年の映像表現においてどのように変わったか、さらにはインターネット動画配信などのあたらしいメディアと出会うことでどう変わったかにも、照明をあてる。

後半の映像制作では、デジタルカメラによる撮影、ノンリニア編集、SMILを使った動画ストリーミングプレゼンテーションの作成等のスキルを使う。前半後半を通して、「動画」というコンテンツ形式がどのような特性を持っているかを意識化することを重視し、制作にあたっては、コンテンツ特性を明確にした制作物を高く評価する。

進め方は次の通り。

- 1) イントロダクション
- 2) カメラワーク1：フレーム
- 3) カメラワーク2：アングル、構図
- 4) モンタージュ1：対話とアクション
- 5) モンタージュ2：時間構成
- 6) コンセプト
- 7) 制作1：コンセプト設計
- 8) 制作2：動画配信とSMILによる制御
- 9) 制作実習1
- 10) 制作実習2
- 11) 制作実習3
- 12) 制作実習4
- 13) 合評会
- 14) まとめ
- 15) 予備

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業外には、授業で学んだ映像技法を実際の映像作品に照らして考察を深めることや、コンテンツ制作の構想や実行に相当の時間を必要とする。とくに制作課題は、授業時間のなかだけで完成させることを想定しておらず、通常のレポート課題と同様に、授業外の時間を多く使うことを理解されたい。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

作品およびレポートによる。これらの提出が最低達成基準である。

【オフィスアワー：授業相談】

月曜4限

不在の場合はメール等で連絡をとること

【学生へのメッセージ】

現在映像コンテンツは非常に容易に、また気軽に制作し発表することができる状況になっていますが、この授業では「人間」をどう撮すか、人間と人間の「出会い」をどう撮すかという、現代の映像にとっておそらくもっとも困難な課題を追求したいと思います。映画が誕生して100年。

映画がもっとも悩んだのもこの問題です。これからさまざまなメディア制作に挑戦していこうとする学生諸君にとっては、ある意味でなくもがなの問題設定かもしれませんが、そこが「面白い」と感じる人に受講していただきたいと思います。

【その他】

なし